

教育と保育のための 発達診断セミナー

2026年5月31日（日）13:00～16:40

オンラインライブ（見逃し配信あり）

本セミナーは、2009年から全国各地で開催し、好評を得てきました。現在は年2回、全国どこからでも受講できるオンラインセミナーとして開催しています。「発達について学びたい」「障害があるってどうのこと？」「よりよい実践をつくりたい」など、保育・療育、教育、福祉に携わるあなたの切実な声に応えます。

プログラム

(1) 4歳頃の発達とその発達の理解

発達の節目の一つといわれる4歳頃。まわりが見え始め、自分の気持ちと周囲との間で折り合いをつけようとする姿が見られます。講義ではその土台となる発達の道すじを確認しつつ、この時期を生きる人たちの日々の揺らぎや葛藤、意欲や喜びを見つめ、生活を豊かにする支援のあり方について考えたいと思います。（テキスト下巻Ⅱ-5章）

藤野友紀さん（札幌学院大学）

(2) 5～6歳の発達とその発達の理解

行動する前に「こうしよう」と計画する力を獲得すると、その計画を仲間と共有することが可能になり、みんなでわくわくしながら話し合うことができるようになります。そんな時期の発達の力が診断場面にどんなふうにあられるかを解説した後、保育の中でのエピソードを紹介して集団の中での姿を共有したいと思います。（テキスト下巻Ⅱ-6章）

西川由紀子さん（京都華頂大学）

(3) 学齢期前半の発達とその発達の理解——9歳の節までを視野に

「9・10歳の発達の節目」の時期は具体的思考から抽象的思考への移行期とされ、発達のつまずきが生じやすい時期であることが指摘されてきました。本講座では「9・10歳の発達の節目」の特徴を整理しつつ、この時期の発達診断の方法と、「9・10歳の発達の節目」を豊かに乗り越えていくための教育指導の課題を考えます。（テキスト下巻Ⅱ-7章）

楠凡之さん（北九州市立大学）

こんなセミナーです ～前回セミナー参加者の感想から～

●「好きな遊びをたっぷり」と職員が共有して取り組めることが大切だと思いました。失敗や逸脱を面白がるようなあそび心。集団づくり。そのために発達を勉強するって大事ですね。

●目に見えてすぐ成果のあがる小手先の指導ではなく、実体験できる集団での活動を通して、子ども同士がもっともまれる経験が必要だと強く感じました。

●発達のみちすじを理解することが、障害のある成人の支援にも必要だと感じました。生活経験の共有があり、そのうえでともに書く・読む経験が重要ですね。

参加費

一般	●5,000円
全障研会員	●3,000円
学生・障害者	●2,000円

参加申し込みは **3月20日（金）** から

QRコードまたは URL からアクセス
<https://form.run/@20260531>



共催 NPO 法人 発達保障研究センター／全国障害者問題研究会

問合せ先 NPO 法人 発達保障研究センター TEL 03-6265-0193 土日休日除く9時～17時

メール s2026@nginet.or.jp ウェブサイト www.nginet.or.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 4-7 新宿山吹町ビル 5F 全国障害者問題研究会 内